



治水や利水のために、川にはどんなものが造られているの

堤防やダムなどが造られている

堤防やダムを築いて、洪水を防いだり、川の水を利用しやすくしたりすることを「治水」といいます。また、川の水をうまく利用することを「利水」といいます。

治水や利水のために、川には、いろいろなものが造られています。

その代表的なものをあげると、堤防、護岸、床止め、水制、せき、ダム、水門などです。

<堤防> 川の水を安全に流し、はんらんを防ぐためのもの。

<護岸> 川の水や流れから、川岸や堤防を守るために設けられたもの。

<床止め> 川の床（底）が流れでけずられるのを防ぎ、川のかたむきを安定させるために、川を横切って、設けるもの。

<水制> 川の流れの向きや勢いをコントロールして、川岸がけずられるのを防ぎ、流れの中心を川岸からはなす目的で造られたコンクリートブロック杭など。

<せき> 水の流れを計画どおりに分けるために造られた分流せき。

<ダム> 川の水をしばらくの間ためておく、高さ15メートル以上の施設。

<水門> 用水、排水、船の交通のために、堤防をけずって造った門。本流と支流の合流地点、分流地点にある。

川は生きている

治水や利水のために、川にいろいろなものを造ると、川はそれに反応して、姿を変えてしまいます。特に、大きな工事をすれば、もともとの目的と関係ない、望まないことが引き起こされてしまいます。川は、つねに、変化しつづけ、川は生きているといわれるのです。

（監修・保岡 孝之）

